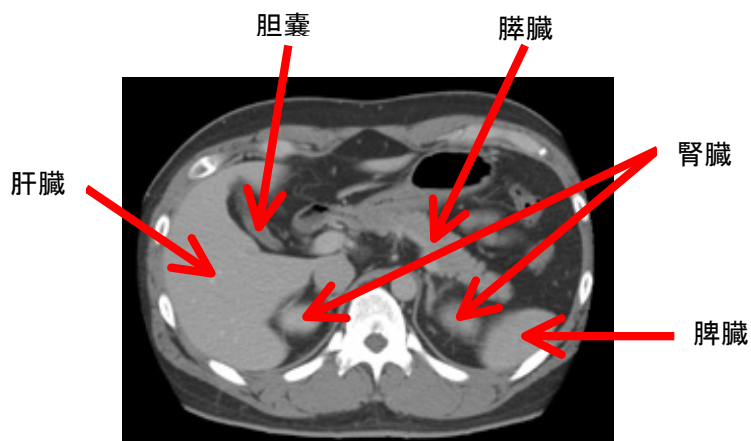


腹部 CT 検査

腹部 CT 検査とは、上腹部を CT 装置で撮影します。上腹部の検査で診断可能な臓器は、主に肝臓・脾臓・膵臓・胆嚢・腎臓です。それ以外にも副腎、大血管、腹腔内リンパ節、腸間膜にある病変等の観察が可能です。また、オプション検査の腫瘍マーカーも組み合わせると肝臓がん・膵臓がん等の診断に役立ちます。



腹部 CT 検査では腹部臓器原発の悪性腫瘍がないかどうかを調べます

腹部 CT では、肝臓がんや膵臓がんなどの腹部臓器原発の悪性腫瘍がないか、また悪性腫瘍があった場合にそれがどの程度進達しているか、腹部のリンパ節に転移していないか、などがわかります。

その他、急激な腹痛、下痢や嘔吐などが伴う急性腹症が起きた際に、腹部 CT は有用な検査の中の 1 つで、消化管の穿孔、胆石、胆嚢炎、膵炎、黄疸、尿路結石、解離性大動脈瘤、膿瘍なども診断できる検査です。

検査方法

CT 装置(東芝メディカルシステムズ株式会社製 Aquilion64)で上腹部の撮影をします。検査時間は 5 分程度です。なお、10 秒程度の息止め撮影を数回実施します。

腹部 CT 検査では、腹腔内のガスや脂肪の影響を受けないため腹部超音波検査より診断に役立つ情報が得られます。しかし、胆嚢ポリープなど超音波の方が有用な場合もあります。

注意事項

- 腹部 CT 検査は上腹部を 7mm 刻みの横断面(輪切り)を撮影しますので、7mm に満たない病変は描出されないことがあります。
- X 線検査のため、妊娠中または妊娠の可能性があるかたはご遠慮ください。